

平成22年4月14日
受信環境クリーン中央協議会

電波障害防止に関する功労者の表彰について

— 個人8件に対し —

受信環境クリーン中央協議会（会長：岡井 元 財団法人電気通信振興会理事長）は、電波障害防止に関し、顕著な功労のあった次の個人及び団体に対して表彰を行うこととしました。

なお、表彰式は、来る4月15日（木）午後5時15分からKKRホテル東京「孔雀の間」で行う予定です。

【個人】

（順不同、敬称略）

氏名	職業	実績の概要
かわさき くにひろ 川崎 邦弘	(財)鉄道総合技術研究所 信号通信技術研究部 通信研究室長	走行列車の影響を含めた鉄道沿線における地上デジタル放送の受信品質を把握するためには現状では実測調査に拠らざるを得ず、特に通過列車による過渡的な障害が発生する範囲の把握に時間がかかっていた。そこで、実測に拠らずに鉄道構造物や列車通過の影響を推定する手法の検討を行った。その結果、高架及び列車による回折現象と、高架下を通過して到来する電波の影響、さらには列車通過時の雑音強度も考慮してC/Nの変化量を予測計算する手法をまとめ、実際に現場で利用できるよう、Windowsアプリケーションプログラムを開発した。鉄道沿線用の受信障害範囲予測手法の使用実績としては、2009年3月に実用可能なプロトタイプが完成した。本予測手法は、JR各社からのコンサルティング依頼や受託を受けて鉄道総研において沿線の受信品質を測定評価する際に、沿線での測定点を選定するために実際に使用している。依頼元からは、予測手法によって測定が必要な地点と不要な地点の選り分けが出来るようになり、測定にかかる時間とコストの節約が可能になったとのコメントを頂いている。また、一部のJRで試使用した結果、「これまで実際に測定しなければ障害の原因を把握できなかったが、本手法を使用することにより原因が容易に予測できるようになり、沿線住民の受信環境の改善がスピーディーに行えるようになった。」との評価を頂いている。
よしおか かずのり 吉岡 一則	東日本旅客鉄道(株) 高崎支社設備部信号通信課	日本国有鉄道時代を含めて約18年間という長きにわたり、テレビ受信障害対策に関する業務を担当し、新幹線の高架橋などに起因するテレビ受信障害への対策を行うため、保守会社との連携を密にしながら共聴施設の機能維持に貢献してきた。また、新幹線沿線の住民との間に大きなトラブルを発生させることなく今日までこられたことは、当人の献身的な誠意有る対応と努力によるものだと言える。2011年7月の地上デジタル放送への完全移行については、91施設組約13,750世帯に対する当社の対応方針に関する説明及び技術的な助言や、当社と協力しながら施設組合員の地上デジタル放送への移行を支援している通信事業者などに対して、当社が対応してきた施設組合の共聴施設の維持管理業務を引き渡すための調整などを実施することにより、受信障害の積極的な解消に貢献するなどその功績は大である。

<p>やまざき はる お 山 崎 東 夫</p>	<p>団体職員</p>	<p>昭和43年に(財)電波技術協会に入協以来、現在に至るまで放送電波の受信状況調査及び建造物、飛行機等による受信障害調査並びにラジオ及びテレビジョン受信機等の性能調査に一貫して従事してきた。昭和49年10月から平成11年8月までの間は本州四国連絡橋の建設にあたって、受信状況調査及び受信障害調査に従事し、当時まだ橋梁のような建造物に対する障害事例が少ないなか、橋梁による受信障害の事例を系統的にまとめてその後の橋梁等の障害調査方法の確立に貢献した。また、昭和48年から始まった成田空港周辺の航空機によるテレビ受信に対するフラッター障害調査に従事し、豊富な経験により、実態調査から受信障害エリアの範囲の確定など受信サービスの向上に寄与した。</p>
<p>あ べ すすむ 阿 部 進</p>	<p>(株)協和エクスオ</p>	<p>昭和55年協和電設(株)(現(株)協和エクシオ)に入社以来、通信・放送伝送路の設計・施工に従事、また、テレビ電波障害解消関係に携わる。平成15年に(社)日本CATV技術協会関東支部調査部会幹事となり、以来一貫して建造物によるテレビ受信障害調査に関する業務の改善の中心的役割を果たした。特に、「建造物によるテレビ受信障害調査要領」「調査標準積算工数表」「建造物障害予測技術講習会」「障害予測技術向上検討会」の主査を務め、豊富な知識と幅広い経験をもって、地上デジタル放送開始における建造物障害予測調査技術の向上と普及に尽力し多大な貢献をした。</p>
<p>やしま あき お 八 島 彰 夫</p>	<p>(社)日本CATV技術協会 東北支部 事務局長</p>	<p>平成11年10月に(社)日本CATV技術協会東北支部の事務局長に就任して以来、テレビ受信障害に関する技術講習会を積極的に開催して、建造物等によるテレビ受信障害の予測調査及び対策工事に関わる技術者の育成に努めるとともに、毎年開催している東北受信環境クリーン協議会主催の技術セミナーへの講師派遣にも尽力され、東北地域における建造物障害対策の円滑な推進と良好なテレビ受信環境の確保に多大な貢献があった。また、平成11年度以降、東北受信環境クリーン協議会の常任委員として協議会の活動推進に尽力された。</p>
<p>きく ち もり お 菊 地 盛 雄</p>	<p>元(株)さくらんぼテレビジョン 経営管理局技術担当局長</p>	<p>昭和38年(株)仙台放送入社以降、(株)さくらんぼテレビジョン勤務も含め46年の長きに亘り一貫して技術部門に勤務し、宮城県及び山形県内の電波環境の改善に尽力され、放送業界の技術向上に対する功績は大きい。特に、山形県内の地上デジタル放送開始以降、デジタル中継局14局所の建設計画に携わるなど地上デジタル放送が良好に受信できる環境の確保に向けた努力は大きい。また、東北受信環境クリーン協議会の事務局員(2年)及び常任委員(3年)として、協議会の円滑な運営に努め活動の推進に尽力した。</p>

<p>さいとう ひろし 齋藤 博</p>	<p>房 総 電 機 (株) 会長</p>	<p>昭和36年以來、千葉県電機商業組合の理事・専務理事・副理事長及び理事長の職につき、昭和58年から全国電機商業組合連合会の要職を歴任し、平成17年から平成21年にかけて同連合会の会長として、組織内の電気店の技術力向上に向けて各種施策を実行し、電気店における良好な受信システムを普及させることにより受信環境の維持・改善に尽力した。また、デジタル110番を立ち上げ、デジタル放送の円滑な普及に向け技術相談体制を構築することにより、地上デジタル放送の良好受信に大きく寄与するとともに、全国的にデジタル放送の普及に拍車をかけることが出来た。あわせて、長年にわたり電波障害防止協議会・受信環境クリーン協議会の委員を務め、受信障害の未然防止、受信環境の維持・改善に多大な貢献をした。</p>
<p>つづお まさかず 続 麻 政 一</p>	<p>(社)電波産業 会</p>	<p>NHKに入局以来、長年にわたり放送の送信・受信技術業務に従事され、テレビ・ラジオの放送受信環境の維持改善に尽力された。特に、昭和50年代以降の急激な都市化によって悪化した受信環境の改善に向け、関係団体・各事業者への指導・周知等取り組まれた活動は極めて顕著である。また、NHK退職後は、ARIBのアナログ周波数変更対策事業本部に勤務。中心的人物として活動し、全国のアナログ変更対策業務の円滑な推進を行い、地上デジタル放送の早期普及の基盤を築いた。</p>

<参 考>

受信環境クリーン中央協議会では、本件表彰を昭和34年（1959）から毎年実施しており、今回で52回目となります。

連絡先：受信環境クリーン中央協議会 事務局
（財団法人電気通信振興会内） 関
（電話03-3940-3955）